

英語教育推進委員公開授業「中学校外国語科」学習指導案

1 単元(題材)名 NEW HORIZON English Course 2

Unit 5 「Universal Design」 Read and Think①

2 単元(題材)の目標

だれもが使いやすいものや、暮らしやすい社会について考える。

身近なもの・ことについて、使い方ややり方を説明したり、自分の考えを述べたりすることができる。

3 単元(題材)の評価規準

ア 知識・技能	イ 思考・判断・表現	ウ 主体的に学習に取り組む態度
<p>① ア [知識]</p> <p>〈疑問詞＋to〉を用いた文や〈主語＋be 動詞＋形容詞＋that〉の文の形・意味・用法を理解している</p> <p>イ [技能]</p> <p>〈疑問詞＋to〉を用いた文や〈主語＋be 動詞＋形容詞＋that〉の文の理解をもとに、使い方ややり方、確信や喜びの気持ちなどを伝え合う技能を身につけている。</p>	<p>だれもが暮らしやすい社会について考えるために、身近なものやことの使い方ややり方を説明したり、相手の考えや気持ち、ある人物の功績について書かれた文章の概要を捉えたり、してみたいことを伝え合ったりしている。</p>	<p>だれもが暮らしやすい社会について考えるために、身近なものや使い方ややり方を説明したり、相手の考えや気持ち、ある人物の功績について書かれた文章の概要を捉えたり、してみたいことを伝え合ったりしようとしている。</p>

4 指導観

(1) 単元(題材)観

本単元は、身近なユニバーサルデザイン商品に注目した単元である。私たちの生活の色々なところで使われているユニバーサルデザイン商品を通して、誰もが使いやすいものや暮らしやすい社会の実現の大切さを再認識していく。単元を通して生徒がユニバーサルデザインに関心をもち、自分自身の考えを他者に英語で伝える力を育成する。

そこで、中学校学習指導要領（平成29年3月告示）の第2章、第2節、英語の目標の（4）話すこと〔発表〕の「ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて話すことができるようにする。」と（5）書くことの「ウ 社会的な話題に関して聞いたり読んだりしたことについて、考えたことや感じたこと、その理由などを、簡単な語句や文を用いて書くことができるようにする。」を実践する。

本単元の新出文法は〈疑問詞＋to〉を用いた文や〈主語＋be 動詞＋形容詞＋that〉の文の形である。自分自身の表現の幅を広げることのできる文法事項なので、英語を用いる場面や状況に合わせて効果的に使用できる力を育成する。

(2) 生徒観

足立区学力定着に関する総合調査（以下、区調査）の意識調査によると、「英語が好き」という項目に肯定的な回答をした生徒の割合は、2年生では58.0％（全国比＋5.1）、3年生では54.2％（全国比＋1.3）であった。また、「授業が分かる」という項目では、2年生では62.2％（全国比＋4.0）、3年生では62.1％（全国比＋3.9）であった。さらに「英語の授業で、原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちを英語で伝え合う活動をしている。」という項目では、2

年生 55.9% (全国比 4.9)、3年生 55.6% (全国比 3.1) の生徒が肯定的に回答している。

これらの結果から生徒は英語に興味関心をもち、積極的に言語活動に取り組んでいると考えられる。今後は「話したこと」を基に「書く」活動を取り入れ、4技能のバランスのよい育成を目指したい。

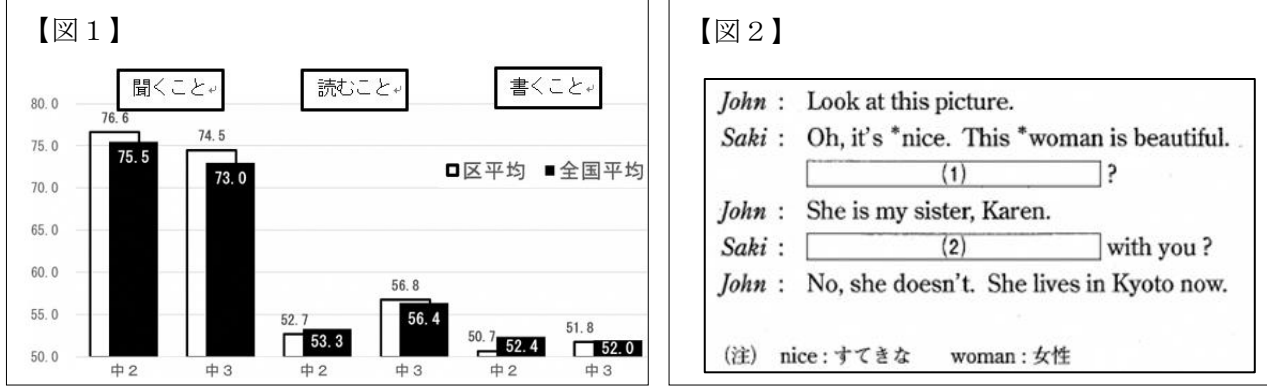
(3) 教材観

デジタル教材を使って授業を進めている。今回の単元では、より本文の内容を身近に感じさせるために、実物を使って生徒に興味をもたせ理解を深めていく。また、ユニバーサルデザインに関する基本的な内容と論理的な文章構成の導入を、生徒が第1学年時に使った家庭科や国語科の教科書を使って行う。このことにより既習事項と関連付けながら、より円滑に内容を理解させていく。

(4) 英語教育推進委員会による区調査の分析と解決の方向性

区調査の結果を領域別に分析すると、「書くこと」の領域において全学年で全国値を下回っている。また、「読むこと」の領域においては、中1及び中2で全国値を下回っている。(図1参照)

さらに、2年生において平均正答率の最も低い問題は4-(2)で、区の平均正答率は25.0% (全国比-1.1)であった。(図2参照)



このことから推進委員会では、前後の文脈を捉え、内容を理解した上で、その場面や状況に応じたつながりのある英文を書くことが課題と捉えた。そしてこの課題の解決に向けた指導のポイントとして、以下の3点を中心に議論を進めた。

- ア 教科書の本文を中心に、自分の力で内容を読み取る機会を設定する。
- イ 伝える内容面を重視した「書く」活動を取り入れ、楽しさを実感させることで意欲を高める。
- ウ 生徒同士で英文を確認する活動を取り入れ、生徒が自発的に書いた文を校正できるようにする。

そして今回の授業では、小学校と同様に単元の1時間目から言語活動に取り組ませ、その言語活動を継続することで、言語面の正確さと内容の豊かさの向上を図る。さらに、話したことを「書く」活動を通して、課題の解決策として提案する。

5 年間指導計画における位置付け

1年次に扱った疑問詞の意味を踏まえながら本単元の指導を行っていく。

6 単元(題材)の指導計画と評価計画(全11時間)

時間	ねらい (■)・主な言語活動等 (丸数字)	知	思	態	備考
第1時	■ 〈疑問詞+to〉を用いた文の使い方を理解し、表現することができる。【p73】				・帯活動は、単元の目標に合わせ、

	①〈疑問詞＋to〉を用いた文の意味を考えさせ、実際にペアやグループで会話をするアクティビティを行う。				10分程度、ペアで会話する活動を継続的に言い、即興で話す力を育成する。 ・ある程度話せたところで自分の話した内容を書かせ、まとまった文章を書く力を育成する。 ・表現の幅を広げさせるため教科書の本文を聞いて書く時間を設ける。 ・主体的に学習に取り組む態度については、生徒の目標に対する言語活動の状況を把握し、単元を通して評価する。
第2時 Unit5 Pre- Reading (p71, 72)	<p>■ユニバーサルデザインについて相手に自分の知っていることを伝えることができる。</p> <p>英語で説明されたユニバーサルデザインを理解することができる。【p71, p72】</p> <p>① ユニバーサルデザイン製品についてペアの相手に伝える。</p> <p>② p71の写真を使ってユニバーサルデザイン製品についてペア、またはグループで話し合う</p> <p>③ p72のMegとKaitoの会話文を聞きユニバーサルデザインについて理解を深める。</p>				
第3時 Unit5 Scene1 (p. 73)	<p>■自分の知っているユニバーサルデザイン製品の特徴について相手に伝えることができる。</p> <p>英語で書かれたイベントのチラシの内容を理解することができる。【p73】</p> <p>① 前時で聞いたKaitoの言葉を参考に自分の知っているユニバーサルデザイン製品の特徴をペアに伝える。</p> <p>② 本文を聞いたり読んだりする。</p>				
第4時 Unit5 Scene1 (p. 73)	<p>■自分の知っているユニバーサルデザイン製品の特徴について相手に伝えることができる。</p> <p>Scene1の内容理解を深める。【p73】</p> <p>① 自分の知っているユニバーサルデザイン製品の特徴をペアに伝える。</p> <p>② p73のチラシに関するQandAを口頭で行う。</p> <p>③ 本文内容理解を深め、本文の内容に合った質問を考え、書く。</p>	○	○		
第5時 Unit5 Scene2 (p. 74)	<p>■自分の知っているユニバーサルデザイン製品について英語で書くことができる。</p> <p>Megがスタッフから学んだことを聞きとる。【p74】</p> <p>① ペアでこれまでの会話を振り返り、自分が今までに話した内容を書く。</p> <p>② Megとスタッフの会話からユニバーサルデザインの特徴を理解する</p>	○	○	○	
第6時 Unit5 Scene2 (p. 74)	<p>■Megとスタッフの会話文の内容を理解したうえで、音読することができる【p74】</p> <p>① Megとスタッフの会話の内容に関するQandAを口頭で行う</p> <p>② Megとスタッフの会話の内容を理解した上でペアで音読する。</p>				
第7時 Unit5 Scene2 (p. 74)	<p>■ユニバーサルデザイン製品について書いた自分の文をまとめた文章にすることができる</p> <p>① 前時の復習を行う</p> <p>② 第5時に書いた英文を教科書の本文や他の生徒の文章を参考に正しく書き直す。</p>	○	○		
第8時 Unit5 Read and Think1 (p. 76)	<p>■Megのスピーチの概要を読み取ることができる</p> <p>ユニバーサルデザイン製品について自分の意見を相手に話すことができる</p> <p>① 本文を黙読し、Megの調べた内容の概要を読み取る。</p> <p>② トピックセンテンスに関するリーディングクエスチョンを与え、答えのところに線を引かせる。</p> <p>③ トピックセンテンス以外の内容に関するQandAを口頭で行う。</p>				

	④ ユニバーサルデザイン製品について自分自身の考えをペアに話す。				
第9時 (本時) Read and Think1 (p. 76)	■本文の内容について理解を深めることができる。 ユニバーサルデザイン製品について自分自身の考えを含めて書くことができる ① 前時の復習として本文の内容をもう一度聞き、本文の内容に関する QandA を口頭で行い、本文の内容に関するワークシートに取り組む。 ② p76 の Meg のスピーチ文の構成を考え、自分の文と比べてみる。 ③ 自分の書いた文をペアの相手に伝える。 ④ ユニバーサルデザイン製品について自分自身の意見を含めて書く。	○	○	○	
第10時 Read and Think2 (p. 78)	■Josh が本から学んだ内容の概要を読み取ることができる。 ① 本文を黙読し、Josh の読んでいる本の内容の概要を読み取る。 ② トピックセンテンスに関するリーディングクエスチョンを与え、答えのところに線を引かせる。 ③ トピックセンテンス以外の内容に関する QandA を口頭で行う。				
第11時 Read and Think2 (p. 78)	■本文の内容理解を深めることができる ① 前時の復習として本文の内容をもう一度聞き、本文の内容に関する QandA を口頭で行い、本文の内容に関するワークシートに取り組む。 ② 章まとめのリスニングテストを行う。	○	○		

7 指導に当たって

(1) 授業形態の工夫

本学年のクラス分けは、2学級3展開での少人数クラスとしている。習熟度ではなく、ペア同士が教えあって、多くの生徒が積極的に活動できるように、今までの英語授業への取り組みや英語力などを考慮して、全てのクラスの学力が均等になるように分けている。教師はゆっくり話したり、必要に応じて生徒の意見を板書したりしている。生徒たちがお互いに協力し、生徒同士の学び合いができるようになってきている。

(2) 指導方法の工夫

授業では生徒が書ける表現を増やすために、これまでに習った教科書の本文を聞いて書く「ディクテーション」活動を継続している。また、お互いの意見はもちろん会話の表現の幅を増やすために、Let's Talk や Let's Chat の際は、単語ではなく文で伝えさせたり、教科書の本文の大切な部分や自分の意見を伝えるために必要な表現を適切に引用させたりして表現力を高めていく。さらに、Let's Talk で伝え合ったことを全体で共有するなどし、使える表現を蓄積させ、自分の考えを深め、適切に表現できるようにすることに留意している。これらにより、生徒が自信を持って英語で表現できるようになる。さらに、生徒自身に英語表現の意味を予想させたり、聞いたり読んだりして捉えた自分の考えを深めさせるために、まずは個人で考えさせることを大切にしつつ、次にペアで確認した後に全体で共有するようにしている。また、生徒が自ら英語を読む力を向上させるため、教科書の各パートの本文を初見で黙読させる時間を継続していく。

(3) 教材・教具の工夫

デジタル教材を使って授業を進めている。また、すでに家庭科での授業で学んだユニバーサルデザ

インの知識などを使って導入をスムーズに行っていく。さらに、まとまりのある文書を書かせるために過去に習った国語科の教科書を使い、論理的な文章の組み立て方を考えさせる。

8 本時(全11時間中の第9時)

(1) 本時の目標

ア まとまった文章の組み立て方を理解することができる。

イ ユニバーサルデザインについて例を挙げ、自分自身の意見を書くことができる。

(2) 本時の展開

時間	○学習内容・学習活動	指導上の留意点・配慮事項	評価規準（評価方法）
導入 (2分)	○Greeting	・授業に取り組む姿勢をつくる。	
展開 (43分)	<p>○Reviewing</p> <p>① New Words (3分) 確認でもう一度振り返る</p> <p>② Listen for Reviewing ・本文をもう一度聞き、内容を確認する。(2分) ・Oral Q and A (5分) ・Work sheet (5分)</p> <p>③ Pre-writing (10分)</p> <p>○Speaking and Writing</p> <p>① 本文の構成をもう一度確認し、自分自身の文をもう一度見直させる。 (2分)</p> <p>② ペアの相手に自分の考えた内容を伝える。</p>	<p>・一度順番通りに確認した後、ランダムに提示された日本語を英単語に言い換えていく。</p> <p>・重要な単語については綴りを空中に書かせたりする。</p> <p>・次の活動をスムーズに行うために実施</p> <p>・Picture cardを見せながら口頭で行ったり、ワークシートを使ったりして理解を深めていく</p> <p>・教科書の本文などから自分のwritingに使える部分に線を引かせる</p> <p>・本文の構成(introduction-body-conclusion)を考えさせる</p> <p>・適宜ペアでの話し合いの時間を設け、教え合う環境を設定する。</p> <p>・一人で読ませ、リハーサルを行う</p> <p>・ペアを2, 3回変えて行う。</p> <p>・机間指導を行い、生徒が使いや</p>	<p>【書くこと】 時間内にテーマに沿った英文を書くことができる(プリント)</p>

	(10分)	すい表現をピックアップする。	
	③ ペアに伝えた内容を書く (8分)	・辞書等は使わずに自分の英語力で書かせる。	
まとめ (3分)	本時の振り返り	・ワークシートの振り返りを行う。 ・宿題の提示	

(3) 授業観察の視点

- ア 生徒の発話機会が十分であったか。
- イ 主体的に考える工夫があったか。
- ウ 本時の目標から振り返りまで一貫した授業構成であったか。